

一般研究集会（課題番号：28K-10）

集会名：超過外力への対応を想定した減災社会の形成を目指す防災ネットワーク形成のための研究集会（防災計画研究発表会 2016）

主催者名：国際総合防災学会 IDRI Society（共催）

研究代表者：高木朗義

所属機関名：岐阜大学

所内担当者名：畑山満則

開催日：平成28年9月16日，17日（岐阜），12月26日（東京）

開催場所：岐阜大学 サテライトキャンパス／東京電機大学

参加者数：53名（所外47名，所内6名）

- ・大学院生の参加状況：5名（修士4名，博士1名）（内数）
- ・大学院生の参加形態 [発表者1名，運用補助2名，その他は聴講参加]

研究及び教育への波及効果について

本研究集会は、産官学からの参加者が、防災・減災に関する課題に理論的、実践的にアプローチした際のプロセスを重視した研究発表会である。土木系を中心とした防災計画研究発表会を9月に岐阜で、災害コミュニケーションに特化した情報系中心の研究集会を12月に東京で開催した。災害対応は分野横断的な研究領域であるが、近年、目覚ましい発展を遂げている情報システム領域の研究者と、社会実践を重視する土木系の参加者の交流を意識したプログラムを提供することで、防災研究の裾野を広げ、課題解決に新たな視点を見出す効果が期待される。

研究集会報告

(1)目的

災害対応・復旧・復興から防災・減災に関する今日的課題は多岐に亘りかつ複雑であるため、様々な分野の研究者が相互に知恵を出し合い連携しなければならない。本発表会では、災害復興や地域防災に携わる土木、建築、情報、社会心理などの研究者やコンサルタント、国・自治体の実務者、地域防災団体やNPO活動家が一同に集い、実践的・理論的な研究・活動発表と様々な視点から討議し、災害対応・復旧・復興や防災・減災に関する課題解決や今後の展開について議論する。岐阜、東京での開催は、防災ネットワークを実空間上に広げることを目的としており、さらに東京では、東日本大震災以降積極的な防災活動への参加が行われてきたIT分野との融合を目的としたものであり、災害に見舞われた際に相互協力できる基盤を分野横断的に、さらに仮想空間上まで拡張することを目的とする。

(2)成果まとめ

岐阜での研究会では、実践防災を行いながらも土木計画学的視点で分析・評価を行う研究者、情報処理の技術をベースに被災者や行政の災害対応を支援する研究者・支援団体代表者の参加があった。参加者はそれぞれに問題点を内包しており、同様の経験を過去に持つ人々との意見交換が積極的に行われた。東京では、これまで情報分野に隔たりがちであった災害コミュニケーションの研究集会に土木系の研究者を加え、防災知識の共有を図ることを実現した。両研究会でも、2016年4月に発生した熊本地震での実践事例が報告されており、最新の事例の共有とネットワークの拡大につながったと考えている。研究と実践を結び付ける活動という意味でも社会的意義は極めて大きい研究集会であった。

(3)プログラム

【9/16（金）】

（10:00～10:15）オープニング

(10:15～10:45)「既存住宅の耐震改修促進と固定資産税制度の課題」

大阪商業大学経済学部 西嶋 淳

(10:45～11:15)「整備費用を最小化する緊急輸送道路整備計画立案方法」

岐阜大学工学部 杉浦聡志, 倉内文孝, 高木朗義

(11:15～11:45)「防災事業および道路事業の戦略的整備検討のための SCGE 分析」

山梨大学工学部 武藤慎一,

(株)建設技術研究所 江守昌弘, 天野光歩, 山口大輔, 加藤千恵, 森山 智

国土文化研究所 木村達司

(11:45～12:15)「防災・減災のための自助・共助支援アプリ『減災教室』」

NPO 法人 Do It Yourself 東 善朗

(12:15～13:15) 昼食休憩

(13:15～13:45)「避難所開設訓練の小規模コンテンツ化について」

和歌山工業高等専門学校 総務課 吉野眞一

(13:45～14:15)「災害発生後の応急対応期から復旧・復興期に至る過程における

枠組みの検討」

関西学院大学総合政策学部 照本清峰

(14:15～14:45)「路面設置型蓄光式誘導標識を用いたシステム」

株式会社イージーサービス 河野 剛

(14:45～15:15)「地域防災力向上とそのマネジメントに向けた人材育成評価の試行錯誤」

岐阜大学流域圏科学研究センター 小山真紀,

岐阜大学工学部 高木明義・能島暢呂,

岐阜大学地域減災研究センター 村岡治道

(15:15～15:30) 休憩

(15:30～16:00)「岐阜県における災害情報システム開発と地域啓発」

岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科 廣瀬康之

(16:00～16:30)「災害対応におけるドローン活用についての考察」

京都大学防災研究所 畑山満則

(16:30～17:00)「岐阜県における防災・減災のための人材育成とネットワーク化」

岐阜大学工学部 高木朗義, 小山真紀, 能島暢呂,

清流の国ぎふ防災・減災センター 村岡治道・東 善朗

(16:30～17:30) 全体討議

岐阜大学工学部 高木朗義・京都大学防災研究所 畑山満則

【9/17 (土)】

(10:00～10:30)「気候変動による高潮浸水リスク評価：伊勢湾を例として」

京都大学防災研究所 Xinyu Jiang, Lijiao Yang, Hirokazu Tatano

(10:30～11:00)「自動車津波避難におけるトレードオフ：最適避難計画モデルによる分析から」

東北大学 奥村 誠, 東京都建設局 片岡侑美子

(株)交通システム研究所 金 進英

(11:00～11:30)「水害時の避難指示等の意思決定構造に関する研究」

国土技術研究センター 岡安徹也,

国土技術研究センター情報企画部 湧川勝己

(11:30～12:00) クロージング

【12/26 (月)】

(09:50～10:00) 開会の辞

(10:00～10:30) ISCRAM2016 の関連研究紹介

(10:00～10:15) 「Far Away in Far Rockaway: Responses to Risks and Impacts during Hurricane Sandy through First-Person Social Media Narratives.」

和歌山大学 榎田宗丈

(10:15～10:30) 「The FLUIDE Framework for Specifying Emergency Response User Interfaces Employed to a Search and Rescue Case」

津田塾大学 村山優子

(10:30～10:55) ポスター紹介

電気通信大学 田中健次・石垣 陽

(10:55～11:05) 休憩

(11:05～11:30) ポスター紹介

和歌山大学 吉野 孝・榎田宗丈

(11:30～12:00) ITDRR2016 参加報告

岩手県立大学 佐々木淳

(12:00～13:30) 昼食

(13:30～14:30) 「レジリエントな社会システムのデザイン 「災害に強い」を考える」

University of Agder 櫻井美穂子

(14:30～15:20) 「災害の経済分析における情報の価値について」

電力中央研究所 梶谷義雄

(15:20～15:30) 休憩

(15:30～16:20) 「熊本地震における IT 支援の新しい試み」

災害 IT 支援ネットワーク 柴田哲史

(16:20～17:00) 「災害コミュニケーション ～道路を 1 万キロ走行してわかったコト 2016～」

情報処理学会インターネットと運用技術研究会 松本直人

(17:00～17:40) 「熊本地震対応からみる災害データサイエンスの可能性」

京都大学 防災研究所 畑山満則

(17:40～17:50) 閉会の辞

(4)研究成果の公表

<http://dimsis.dpri.kyoto-u.ac.jp/IPwiki/index.php?forum2016> にて概要を公開中